

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日系人等を活用した日本語教室の設置運営】

受託団体名 財団法人浜松国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

急激な経済下落のため、製造業の派遣雇用にあった多くの定住外国人が失職する羽目に陥っている。もともと厳しい労働条件のために日本語学習のための時間や経費を確保することができず、文法積み上げで日本語での指導による教室では、即時的な日本語を習得することができないということから、外国人労働者の多くが日本語を学んでいなかった。そのため、求職中の外国人は、専門的な技術や日本語能力が十分でないために仕事に就くこともできない。そこで浜松市としては、緊急経済対策本部を設置し、外国人の雇用対策の一環として高い日本語能力を持つ外国人を通訳として臨時に雇用し、「求職者のための日本語教室」を1月から3月まで開催するなどしている。しかしながら、地域在住の外国人にとって、定職に就き安定した生活を営むには日本語能力が大きなハードルとなっている。

そこで、日本語能力が乏しいためになかなか就職できない南米系外国人を対象にした日本語学習支援を展開する。特に、人手不足の介護業界では、外国人雇用に門戸を開いているところもあり、南米系外国人のなかには、介護業務に意欲のある者もいる。こうした労働力の需要と供給のバランスも考慮し、一人でも多くの外国人が安定した職業に就けるよう、その業務上で求められる最低限の日本語を学ぶ機会を提供する。また、介護現場で求められる日本語コミュニケーションの習得のみならず、介助行動と言語が一致するよう技術面での指導を加え、介護職への就職に至るまでの精神的な支援を受けられる場所とする。

そのため、指導者にはバイリンガル教師養成講座を修了した優秀な外国人指導者、看護師、介護福祉士を導入し、日本人の日本語講師とともに連携し、学習内容と活動領域を広めていく。

2 運営委員会の開催について

【運営委員】

| 氏名 | 所属及び役職 |
|-------------|----------------|
| 西原 鈴子 (委員長) | 東京女子大学教授 |
| 秋山 剛 | NTT 東関東病院精神科部長 |
| 春原 憲一郎 | 海外技術者研修協会日本語部長 |
| 石原 昌明 | 浜松市介護保険課主幹 |

| | |
|--------------|-----------------|
| 野々山 勇 | 浜松市人権擁護委員会委員 |
| 中津川 俊郎 | 浜松市社会福祉協議会事務局次長 |
| 足立 久夫 | ハローワーク浜松相談員 |
| 川合 文男 (副委員長) | 浜松国際交流協会専務理事 |

【概要】

| 開催日時 | 出席者 | 議題 | 会議の概要 |
|-------|---|---|--|
| 2月10日 | 野々山勇 中津川俊郎 川合文男 石原昌明 足立久男 | 事業目的 連携の必要性について カリキュラム内容 | 企画書についての出席者 関係機関との連携案協議 カリキュラム内容検討 |
| 3月6日 | 西原鈴子 野々山勇 中津川俊郎 石原昌明 足立久男 川合文男 | 事業進捗状況報告 (受講者について、講義内容と工夫、効果と成果) 課題 | 事業進捗状況報告 意見交換と質疑応答 今後の課題協議 |

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称
介護のための日本語教室
- ② 開催場所
浜松市立南部公民館
- ③ 学習目標
失職状況にある在住外国人が、介護や介助業務に就職できるようにする
- ④ 使用した教材・リソース
介護の日本語（フィリピンミンダナオ大学）
ビデオ教材
ストレッチャー・車いす
疑似体験セット
介護セット（介護用レトルト食など）
介護用オムツ
- ⑤ 受講者の募集方法
チラシ配布およびポルトガル語雑誌に開講記事を掲載。開講にあたり事前ガイダンスを設けて受講希望者を募り、さらに日本語レベルチェックテストと常識テスト、面接を経て受講者を選定。（受講希望者 143 人→テスト受験者 123 人→受講者 30 人）
- ⑥ 受講者の総数 30 人
- ⑦ 開催日数（回数・90分/回） 17日 （全34回）
- ⑧ 日本語教室の具体的内容

| 回 | 開催日時 | 時間数 | 参加人数 | 国籍・母語（人） | 教授者・補助者人数 | 内容 |
|---|----------------------|-----|------|---|---|------------------|
| ① | 2月12日 13:00~16:00 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル語（19） ペルー・スペイン語（3人） フィリピン・タガログ語（8人） | 教授者1人 （看護師） | 開講式 オリエンテーション |
| ② | 2月13日 13:00~16:00 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル語（19） ペルー・スペイン語（3人） フィリピン・タガログ | 教授者2人 （日本語講師・バイリンガル講師） 補助者2人 （日本語ボラン | 食事介助 |

| | | | | | | |
|---|----------------------|-----|-----|---|--|--------------|
| | | | | 語 (8人) | ティア・アシスタ ント講師) | |
| ③ | 2月16日 13:00~16:00 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル 語(19) ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ 語 (8人) | 教授者2人 (日本語講師・バ イリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボラン ティア・アシスタ ント講師) | 食事介助 |
| ④ | 2月17日 13:00~16:00 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル 語(19) ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ 語 (8人) | 教授者2人 (日本語講師・バ イリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボラン ティア・アシスタ ント講師) | 食事介助 |
| ⑤ | 2月18日 13:00~16:00 | 3時間 | 29人 | ブラジル・ポルトガル 語(18) ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ 語 (8人) | 教授者1人 (日本語講師) 補助者2人 (日本語ボラン ティア・アシスタ ント講師) | 衣類着脱 介助 |
| ⑥ | 2月19日 13:00~16:00 | 3時間 | 28人 | ブラジル・ポルトガル 語(18) ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ 語 (7人) | 教授者2人 (日本語講師・バ イリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボラン ティア・アシスタ ント講師) | 衣類着脱 介助 |
| ⑦ | 2月20日 13:00~16:00 | 3時間 | 29人 | ブラジル・ポルトガル 語(19) | 教授者3人 (介護福祉士・日 | シニア模 擬体験・ |

| | | | | | | |
|---|----------------------|-----|-----|--|--|--------------|
| | | | | ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ語 (7人) | 本語講師・バイリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボランティア・アシスタント講師) | 衣類着脱 介助実技 |
| ⑧ | 2月24日 13:00~16:00 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル語(19) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(8人) | 教授者2人 (日本語講師・バイリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボランティア・アシスタント講師) | 排泄介助 |
| ⑨ | 2月26日 13:00~16:00 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル語(19) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(8人) | 教授者2人 (日本語講師・バイリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボランティア・アシスタント講師) | 排泄介助 |
| ⑩ | 2月27日 13:00~16:00 | 3時間 | 28人 | ブラジル・ポルトガル語(18人) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(7人) | 教授者3人 (看護師・日本語講師・バイリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボランティア・アシスタント講師) | 看護師に 報告 |
| ⑪ | 3月3日 13:00~16:00 | 3時間 | 22人 | ブラジル・ポルトガル語(15) ペルー・スペイン語(3人) | 教授者2人 (日本語講師・バイリンガル講師) 補助者2人 | 入浴介助 |

| | | | | | | |
|---|---------------------|-----|-----|---|--|-------------------|
| | | | | フィリピン・タガログ語 (4人) | (日本語ボランティア・アシスタント講師) | |
| ⑫ | 3月4日 13:00~16:00 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル語(19) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(8人) | 教授者2人 (日本語講師・バイリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボランティア・アシスタント講師) | 入浴介助 |
| ⑬ | 3月5日 13:00~16:00 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル語(19) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(8人) | 教授者3人 (介護福祉士・日本語講師・バイリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボランティア・アシスタント講師) | 入浴介助 (清拭) |
| ⑭ | 3月6日 13:00~16:00 | 3時間 | 28人 | ブラジル・ポルトガル語(18) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(7人) | 教授者3人 (介護福祉士・日本語講師・バイリンガル講師) 補助者2人 (日本語ボランティア・アシスタント講師) | 介護の歴史・制度 |
| ⑮ | 3月9日 13:00~16:00 | 3時間 | 6人 | ブラジル・ポルトガル語(2) フィリピン・タガログ語(4人) | 教授者1人 (日本語講師) | 入浴介助 (3月3日分補講) |
| ⑯ | 3月11日 | 3時間 | 30人 | ブラジル・ポルトガル | 教授者2人 | 体験教室 |

| | | | | | | |
|---|----------------------|-----|-----|---|--|----------|
| | 13:00~16:00 | | | 語（19） ペルー・スペイン語 （3人） フィリピン・タガログ語 （8人） | （日本語講師・バイリンガル講師） 補助者2人 （日本語ボランティア・アシスタント講師） | 振り返り・テスト |
| ⑰ | 3月12日 13:00~16:00 | 3時間 | 29人 | ブラジル・ポルトガル語（18） ペルー・スペイン語 （3人） フィリピン・タガログ語 （8人） | 教授者2人 （日本語講師・バイリンガル講師） 補助者2人 （日本語ボランティア・アシスタント講師） | まとめ・修了式 |

※介護体験教室（静岡県事業）：3月2日、3日（7人参加）
3月9日、10日（23人参加）

⑨ 特徴的な授業風景（2～3回分）

○ 入浴介助（3月4日）

- (1) 自作プリントより、定型文の導入。「あまり～すぎると、Vてしまうので・・・」
例：「あまり長すぎるとのぼせてしまうので・・・」
- (2) 定型文を使った文章を学習者が口頭で発表。講師が説明を加え、リピート練習する。
その後、学習者各自でプリントに記入。
- (3) 新出語彙の導入。「身支度の表現」
例：髪をとかず、ひげを剃る。爪を切る。
- (4) 自作プリントより、モデル会話の導入。日本人授業補助者が見本を見せる。その後、学習者が練習。
- (5) 日本語講師が文法、読み書きに関する学習者の質問に復習を兼ねて答える。
- (6) 学習者を5～6人のグループに分け、タスクを与える。
 - A 「鈴木さんは入浴を終えました。しかし鈴木さんはもう少しお風呂に入りたい。あなたはどうしますか？」
 - B 「鈴木さんはお風呂に入っています。あなたは鈴木さんに気持ちよくお風呂にってもらいたい。あなたはどうしますか？」

⑥ 「鈴木さんは自分のペースでお風呂に入っています。あなたが必要な時に声をかけてもらうにはどうしますか？」

(7) 話し合いの後、グループごとに発表し、他のグループから意見を聞く。



○ 衣類着脱介助

(1) 2日間かけて、「衣類脱着介助」に関する上記のような授業を行う。

(2) 介護福祉士をゲスト講師として、実践的な介助方法を学ぶ。

(3) 復習を兼ねて講師より衣類脱着介助において大切なことは何か学習者に聞く。

例：「着患脱健」・着せる時は不自由な部位から、脱がせる時は健康な部位から行う。

(4) 講師が持ってきた実際に使用される服を使って着衣の実技見本を見せる。

(5) 5～6人のグループに分かれ、練習。

この間は、講師の他に、見学に来ていた看護師、ホームヘルパー2級の資格を持つ日本語講師・授業補助者等もグループ内を見て学習者の質問に答える。

(6) 一通り練習が終わった後で、上記2名による脱衣の実技見本を見せる。

(7) 学習者間で練習し、発表する。



⑩ 活用した日系人等（日本語を母語としない）の名簿

| 氏名 | 母語（国籍） | 来日年（日）数 | 参加回数 | 当該教室での役割 |
|-------|------------------|---------|------|--|
| 金城カチア | ポルトガル語 （ブラジル） | 18年 | 13回 | 授業教授者 （バイリンガル講師） |
| 牧野リナ | タガログ語 （フィリピン） | 2年 | 14回 | アシスタント講師 （バイリンガル講師・バイリンガル講師養成講座修了者） |

⑪ 支援者の名簿（⑦以外）

| 氏名 | 所属 | 専門分野及び日本語教育に関する資格 | 参加回数 | 当該教室での役割 |
|--------|-----------|---|------|----------|
| 中村 利恵子 | 日本語講師 | 日本語教員免許 ホームヘルパー2級 | 14回 | 授業教授者 |
| 畠山 和加子 | 日本語ボランティア | HICE日本語ボランティア養成講座修了者（H19）、訪問看護ステーション経験者 | 14回 | 授業補助者 |
| 山本 純 | ボランティア | 看護師 | 2回 | 授業教授者 |
| 飯田 晃宏 | ボランティア | 介護福祉士 | 3回 | 授業教授者 |

4 事業に対する評価について

①「当初の学習目標の達成状況

食事・衣類着脱・入浴・排泄の4つの介助テーマに重点を置き、そこで求められる語彙と表現、会話を学ぶことができた。介護利用者とのコミュニケーションの取り方を受講者同士で考える時間を設けた。その結果、チーム制で働く介護現場に求められる集団意識などを養うこともできた。

②「学習者の習得状況

教室では、語彙や表現といった言語習得のみならず、介護行動技術やボディメカニズムなどの知識も習得した。また、受講者が持つ母国文化を生かして、しぐさやスキンシップによるコミュニケーションの重要性についても学ぶことができた。さらに、現場を一番よく知る講師から介護に求められる相手を「気にかけて護る」意味について指導を受け、介護職に必要な心構えについても理解することができた。このことは、ホームヘルパー2級を取得した日本人以上に介護知識を踏まえていると介護施設より評価を得たほどである。

③「日本語教室設置運営の効果、成果

マスコミの広報活動に功を奏して教室の開催を知った介護福祉施設の管理責任者が見学に来所。浜松国際交流協会の存在意義を広く周知することができ、在住外国人からも再開の見込みについて問い合わせを受けるなどした。

さらに、30人の受講者のうち10人が介護施設への就職が決定した。(3月31日現在)

情報を得た他地域からの問い合わせが殺到。

④「地域の関係者との連携による効果、成果等

【運営委員会の効果】・・・各分野で活躍されている委員を活用

日本語教育専門家；EPAでの外国人に対する日本語カリキュラムの経験による情報提供とカリキュラム内容に関する助言と指導を得られた。また外国人介護士を受け入れた施設へのフォローアップ体制の必要性などを知ることができた。

浜松市社会福祉協議会；静岡県介護保険室への働きかけにより県事業である「介護体験教室」が本事業にタイアップ。そのため、県の費用負担により介護施設での実習を受けることが可能となった。その結果、ある受講者が施設側より採用意向を得ることができ就職へとつながった。

人権擁護委員；地元住民である人権擁護委員が当該地区にある施設へ自ら視察したことにより、施設の外国人就労受け入れの検討に対する門戸が開かれた。

ハローワーク浜松；就職相談のみならず、個別に施設への事業紹介をした。その結果、外国人人材の受け入れに前向きになる施設もあり、就職につながるケースもあった。

【ワーキンググループの効果】・・・より現場に近い担当者同士が事業運営に関わ

った。

看護師；現場は労働力不足に悩んでいる。一生懸命学ぶ外国人の姿を見せようと同僚や友人の看護師を見学に連れてくるなどして理解を求める活動が見受けられた。また、本人が作成する教材内容に変化（以前は漢字表記にルビはなく、一方的でわかりにくい日本語での指導だったが、2回目以降のプリントからは漢字にルビをつけ、共に考えながらゆっくりとわかりやすい日本語の発話で授業を進めていった）が見られた

介護福祉士；ロールプレイの実践が充実し、介護福祉士が男性だったため男性の受講者にとって男性でもできるという自信を得るきっかけとなった。

日本語講師とアシスタント講師；ホームヘルパー2級を取得しており介護経験があるため、指導内容が明確でわかりやすかった。また、講師が実体験を話すことにより介護の現場のイメージを描くこともでき、意識改革にもつながった。

バイリンガル講師；母語での学習フォロー

社会福祉協議会・人材バンク；無償の資料と教材の提供

以上のことから、本事業が介護そのものに関係する様々な分野の専門家の連携により、事業内容の充実に至ることができた。さらに外国人受講者が、このように学ぶ機会を得られ、関係者たちから就職までのサポートを受けることができたことは、外国人市民が社会から見放されているわけではないことを身にしみて感じるようになり、日本（浜松）に定住することを決意し日本社会に貢献したいという思いにかられるようになった。このように介護の現場に方言や地域性に明るい在住外国人が就労することで、少子高齢化にある地方にとって、労働力の確保と多文化共生社会の在り方を認識する機会ともなった。あわせて、介護現場の厳しさと労働環境の整備など、国レベルで法律体制の見直しが必要であることが改めてわかった。

⑤「改善点、今後の課題について（具体的に記述する。）

a. 現状

介護のための日本語教室では、日本語の語彙だけを指導しても介護現場に求められるコミュニケーション能力を習得することができない。よって、介護での専門語彙とその表現がどのように使われるのか、どう使わなければならないかを考える力が求められる。被介護者の状態を見極めたうえで、どのようなコミュニケーションを成立させるか、行動を伴いながら介助活動ができるようにならないといけない。そのためには、介護現場・医療現場の関係者がより多く関わりあえるような事業運営が必要。また本事業で得られたノウハウを活用して、事業の継続が可能となるような資金の確保が求められる。

b. 今後の課題

浜松市では、緊急経済対策事業が進められているが、定住外国人の就労支援を

目的に「求職者のための日本語教室」を開催しているものの、就職につながった例はわずかである。こうしたことから、自治体および国や県の外国人就労支援の具体的な方針が必要で、特に介護福祉施設に対する介護職への外国人材導入の働きかけやインセンティブが必要となる。当面の目標としては、「求職者のための日本語教室」に「介護のための日本語教室」を連動開催し、市が主催するホームヘルパー２級養成講座に受講できる人材の育成を図っていくことが望ましい。

c. 今後の活動予定, 展望

県の介護保険室による「介護体験教室」の継続開催と外国人受講者の受入れが可能となった。国際交流協会と社会福祉協議会に加えて、県と市、介護福祉施設との連携により具体的な取組み方法を樹立させていく。

⑥「その他参考資料

「介護のための日本語教室」教材など